

1月定例記者会見の概要

1 日時 令和4年1月5日(水)9時30分～10時30分

2 場所 本庁舎3階 第一会議室

3 出席者 <報道機関>

- ① 朝日新聞社 南相馬支局(南相馬記者クラブ会員)
- ② 河北新報社 南相馬支局(南相馬記者クラブ会員)
- ③ 毎日新聞社 南相馬通信部(南相馬記者クラブ会員)
- ④ 読売新聞社 南相馬通信部(南相馬記者クラブ会員)
- ⑤ 福島民報社 南相馬支社(南相馬記者クラブ会員)
- ⑥ 福島民友新聞社 相双支社(南相馬記者クラブ会員)

計 6 社

<市側>

・市長

(テレビ会議)

- ・副市長・教育長・小高区役所長・鹿島区役所長
- ・復興企画部長・市民生活部長・健康福祉部長
- ・健康福祉部新型コロナ対策担当理事・こども未来部長
- ・経済部農林水産担当理事・建設部長・総合病院事務部長
- ・教育委員会事務局長・経済部次長

計 15 人

(司会進行) 秘書課長

(会議記録) 秘書課広報広聴係

【市政報告】

皆様、明けましておめでとうございます。

記者の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお喜びを申し上げます。旧年中は、市政に対し格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

早速ですが、年頭あいさつを兼ねて、市政報告をさせていただきます。

昨年も一昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症に翻弄された、多忙な1年となりました。5月10日に開始したワクチンの集団接種は、全国的にもトップレベルのスピードで進み、8月28日に完了しました。その後9月29日以降、市内における新たな感染者は確認されておらず、感染状況は落ち着いています。

一方、東日本大震災と原発事故から十年という節目の年でもありました。3月の「東京2020オリンピック聖火リレー」及び「セレブレーション」、10月の「ワールドロボットサミット2020福島大会」といった世界的なイベントが市内で開催され、復興への歩みを進める南相馬市の現在の姿を市内外に発信することができました。

また、各区に新たな施設を開所いたしました。

4月3日には、小高区に屋内型子どもの遊び場「NIKOパーク」を開所いたしました。昨年末時点の入場者数は24,000人を超えており、多くの方々にご利用いただいております。

4月18日には、鹿島区に、健康づくりトレーニングセンター「スキット千倉」を開所いたしました。10月2日に開通した「真野川親水サイクリングロード」と共に市民の皆様の健康保持に大きく寄与しています。

4月24日には、原町区に震災の記憶を次世代に引き継ぐ「メモリアルパーク」を開所いたしました。

6月28日には、外国人活躍支援センター「SAKURA」を開所いたしました。センターでは、市内に在住又は在住を希望する外国人の方々に対し、市内企業とのマッチング支援、生活支援などを行っています。

12月16日には、小高診療所を開所いたしました。小高区の地域医療の拠点として、レントゲン室や血液検査装置を設置するなど医療施設や機能の充実を図りました。

企業進出の動きとしては、5月に株式会社アルカリスの医薬品製造工場の建設が発表されたほか、6月に復興工業団地の立地第一号としてロボコム・アンド・エフエイコム株式会社、続いて11月には株式会社テラ・ラボの工場が竣工しました。

また、12月に発表された令和2年の国勢調査の結果では、南相馬市は県内13市の中で、唯一人口が増加に転じました。このことは、さらなる復興を目指すうえで大きな弾みとなります。

さて、本年2022年に目を向けますと、まず、新型コロナワクチンの追加接種に取り組む考えです。昨年経験とスキルを生かして、職員一同、円滑で迅速な接種を進めてまいります。

また、高齢化対策や医療、介護サービスの充実、子育て世代に選ばれるまちづくりを通じた移住定住の促進にも一層力を入れてまいります。

記者の皆様には、本年も市の情報発信にご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

それでは、前回11月19日の記者会見から最近までの出来事についてご報告申し上げます。

はじめに、新型コロナウイルス感染症の感染状況についてです。

市内では、昨年9月29日以降、感染者は確認されていません。市民の皆様の感染対策へのご協力に対して、改めて感謝を述べさせていただきます。国内では新たな変異株「オミクロン株」の感染拡大の兆しも見えてきています。引き続き、感染対策の徹底をお願い申し上げます。

次に、LINEを活用した移住相談についてです。

11月26日から、LINEアカウント「みなみそうまからはじめよう」を開設し、24時間、移住相談を受け付けています。LINEの活用により、配信情報の選択や検索を簡単に行うことができます。移住者の増加を目指し、必要な情報を効果的かつ効率的に提供してまいります。

次に消費喚起応援事業についてです。

12月1日から、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた市内経済の活性化を目

的として、昨年に続き「消費喚起応援事業 大抽選キャンペーン」を実施しています。市内参加店で買い物をした際に配布されるシールを集めて、応募ハガキをお送りいただくと、総額一億円相当の商品券を抽選で贈呈いたします。

応募締め切りは、1月31日です。ぜひ、多くの皆様にご応募いただきたいと思っております。

次に、高速道路に関する要望活動についてです。

12月3日に、福島県知事、双葉地方町村会長と共に、国土交通省、復興大臣、東日本高速道路株式会社等に直接要望を行ってまいりました。主な要望の内容としては、常磐自動車道の早期4車線化、小高スマートインターチェンジへの支援、南相馬鹿島スマートインターチェンジの24時間化、インターアクセス道路への財政支援、となります。

次に、市議会定例会及び臨時会についてです。

第6回南相馬市議会定例会は、12月16日に閉会しました。

この議会では、「押印等見直しに伴う関係条例の整理に関する条例制定」や追加提案を含む議案33件及び令和2年度決算認定議案13件について、全て原案どおり可決、認定されました。補正予算に事業費を計上したPCR検査センターは、1月4日から予約を受け付けており、1月7日の開設を予定しております。

また、12月23日に、第7回南相馬市議会臨時会を開催し補正予算について、原案どおり可決されました。補正予算に計上した「子育て世帯への臨時特別給付金」10万円の支給につきましては、市で把握している対象者に、翌24日に振り込みを行いました。

次に、小高診療所の開所についてです。

12月16日に、市立総合病院附属小高診療所を開所いたしました。

診療体制は医師4名、看護師4名、事務6名、診療科は内科及び外科となり、在宅診療も引き続き行います。

今後も、地域の皆様に安定した医療サービスを提供できるよう取り組んでまいります。

次に、ふるさと納税に関する話題についてです。

12月22日に、昨年に続き、実業家の前澤友作氏からふるさと納税として500万円の寄付をいただきました。

この場をお借りして、前澤様に感謝申し上げます。

今回のご支援については、一年を通した誘客に繋がる新たな観光事業の構築に役立ててまいりたいと思っております。

続いて、今後の主な話題について触れたいと思っております。

はじめに、新型コロナウイルス感染症についてです。

まず、ワクチンの追加接種についてです。

12月15日から医療従事者等の接種を開始し、1月4日現在、1,035名の方に接種を行いました。また、12月25日、26日には高齢者施設入所者など828名の方に接種を行いました。

そしていよいよ、65歳以上の高齢者を対象とした一般向けの接種を開始します。昨年と同様、一般向けの接種は日時及び会場を指定した集団接種を行います。

当初、高齢者のワクチン接種は2月開始を予定していましたが、国から「2回目接種完了から7か月以上経過後に追加接種を実施することができる」との方針が示されたことから、2週間前倒しして、1月24日開始、2月26日完了の予定で進めてまいります。

接種日時の案内や接種券等は1月14日から順次発送する予定です。

追加接種で使用するワクチンの種類はファイザー社製と武田モデルナ社製の2種類となり、意向調査の希望に沿ってワクチンを接種いたします。

感染の第6波や変異株に備えるために、積極的な接種にご理解、ご協力をお願い申し上げます。

次に、PCR検査センターの開設についてです。

1月7日から、新型コロナPCR検査センターを原町保健センター駐車場に開設いたします。開設時間は平日の午前9時から午後4時までとなります。検査料金は、南相馬市に住民票がある方であれば月2回まで無料、3回目以降は1回1,900円となります。(1月9日から相双地方に住民票があれば月2回の検査まで無料。)発熱などの症状がない方を対象としており、利用の際は事前に予約をお願いいたします。

なお、発熱などの症状がある方は、従来どおり、かかりつけの病院や発熱等トリアージ外来にご相談いただきますようお願いいたします。

また、ワクチン未接種の方を対象として、福島県では、12月27日から、県内のドラッグストアや病院などで無料のPCR検査を実施しています。市内では原ノ町駅前のドラッグストアで受検いただけます。「ワクチン検査パッケージ制度」に必要な陰性証明書の取得などにご利用いただければと思います。

次に、市成人式についてです。

市では、1月9日に南相馬市民文化会館「ゆめはっと」で令和4年成人式を開催します。

1月4日時点で、353名の新成人の皆様から参加の申し込みをいただいています。

開催にあたっては、前回同様、新型コロナワクチンの接種記録証明の確認や未接種の方を対象としたPCR検査などを行い、感染対策を徹底いたします。

新成人やご家族の皆様が安心して成人の日を迎えられるよう取り組んでまいります。ご理解ご協力をお願い申し上げます。

【質疑応答】

質問1：

高齢者を対象として実施していた新型コロナワクチンの追加接種に関する意向調査の集計は完了しているのでしょうか。また、結果によっては、接種スケジュールが変更になることもあるのでしょうか。

回答1：市長

昨年中に届いた回答分の集計について途中経過をご報告いたします。接種を希望

するワクチンについては、「ファイザー」が51.9%、「武田/モデルナ」が「どちらでも可」と合わせて48.1%になります。県から示された配分割合は、ファイザー社製が約55%、武田モデルナ社製が約45%ですから、今の集計の段階では、概ね当初のスケジュールどおり希望に沿ったワクチン接種を進められる見込みです。

なお、双葉地方等から避難されている方々の回答はこれから集計を行います。1月14日までに全ての集計を完了する予定です。

質問2：

意向調査の対象者数を教えてください。

回答2：市長

南相馬市民だけで19,172人となります。

質問3：

宝島社が集計した「2022年版 第10回 住みたい田舎ベストランキング」において「若者世代・単身者が住みたいまち」、「子育て世代が住みたいまち」、「シニア世代が住みたいまち」の3部門において、県内1位に選ばれたことについて、受け止めを教えてください。また、どのような点が評価されたとお考えですか。

回答3：市長

被災地である本市が様々な施策を進めた結果が相対的に評価され、県内1位に選ばれたことは、自信や誇りにつながるとともに大変喜ばしく思います。

このランキングでは、276項目のアンケートに市が回答し、その内容について評点を付けていただき、「若者世代・単身者が住みたいまち」部門で東北エリア3位、全国11位、「子育て世代が住みたいまち」部門で東北エリア3位、全国9位、「シニア世代が住みたいまち」部門で、東北エリア4位、全国18位という結果になりました。特に、保育料無料化、在宅保育支援金、NIKOパークの開所、不妊治療の助成、待機児童の解消などの取り組みが評価されたものと考えています。

質問4：

移住定住の促進に向けたLINEアカウントの最新の登録者数を教えてください。

また、現時点の登録者数は想定より多い数字なのでしょうか。

回答4：経済部次長

1月4日時点で2,611人（県内175人、県外2,436人）の皆様にご登録いただいています。今後、登録者数の目標は1万人としていますので、目標達成を目指して取り組んでまいります。

質問5：

追加接種に関する意向調査について、アンケートの各項目の回答割合を教えてください。

回答5：健康福祉部新型コロナ対策担当理事

接種を希望するワクチンについて、「ファイザー」が33.5%、「出来ればファイザー」が18.4%、「武田/モデルナ」が14.7%、「出来れば武田/モデルナ」が3.5%、「どちらでも可」が30.0%となります。

対象者数 19,127 人のうち、追加接種を希望しない方は 579 名で 3.1%になります。

質問 6 :

武田/モデルナ社製のワクチンを希望する方が少ないと接種が遅れる可能性があることを懸念していましたが、「どちらでも可」という方が多く、スケジュールどおり接種を進められる見込みということでしょうか。

回答 6 : 市長

そのとおりです。当初懸念していたより武田/モデルナ社製の希望者が多い結果となりました。両方とも同じ mRNA ワクチンで、どちらを接種しても十分な効果があることや副反応の安全性に大きな違いがないこと、早く接種することの重要性等をご理解いただけたのだと思います。

回答 6 : 健康福祉部新型コロナ対策担当理事

市としてワクチンの追加接種に向けてしっかりと広報に取り組んでまいりました。市民の皆様にも市を信頼していただいたことで「どちらでも可」という回答が 3 割を超える結果になったと考えております。

質問 7 :

意向調査において、「どちらでも可」を選択した方に接種するワクチンは、どこで、誰が判断するのでしょうか。

回答 7 : 市長

接種するワクチンの種類は 1 月 14 日から発送する通知に記載する予定です。

質問 8 :

「どちらでも可」とした場合、大半の方がモデルナ社製のワクチンになるのでしょうか。

回答 8 : 市長

避難者の方の集計が終わらないと、配分が決まらない状況です。1 月 14 日から発送する通知を待っていただきたいと思います。

回答 8 : 健康福祉部新型コロナ対策担当理事

各施設にワクチンの種類ごとに 2 つの接種会場を設けるため、施設の広さや収容人数等によって、ワクチンの配分を調整することを検討しています。例えば、浮舟文化会館の場合、一番広いホールをファイザー社製の接種会場とすると、より収容人数が少ない部屋がモデルナ社製の接種会場となりますので、モデルナ社製の接種対象者を少なくする等の対応も考慮する必要があると考えています。

質問 9 :

最近、感染者が増加傾向にありますが、市長としてどのように考えていますか。

回答 9 : 市長

With コロナの年末年始ということで、人流が増えることを懸念し、様々備えてきました。これまで、市内で感染者が発生した場合、家族外へ感染を拡大させないよう対応を進めてきました。今後についても、この拡大させない対応を継続できるよ

うに対策会議等で方針を示していきたいと考えています。

回答 9：健康福祉部新型コロナ対策担当理事

検査体制の確立や保健所との連携を密に図ってまいりたいと考えています。

質問 10：

PCR検査センターの申し込み件数を教えてください。

回答 10：健康福祉部新型コロナ対策担当理事

1月4日時点で約30件のお申込みをいただいています。

以上